

農村ツアーで 「栃木」体感を

紅茶テーマに県主催



【栃木】県は9月27、28の両日、県内各地を巡る「栃木を感じる農村体感ツアー」を開いた。都内を中心に県内外から21人が参加した。中山間地域の人口減少が問題となる中で、都市農村交流を通じて地域の活性化を図ることが目的。今回のテーマは「紅茶」だ。北限の緑茶と言われる大田原市の黒羽茶。以前から黒羽茶の魅力を伝えるツアーを行っていた㈱ファーマーズ・フォレストえにしトラベルに委託し実現した。1日目は、大田原市の雲岩寺地区の茶畑で秋摘み茶の収穫や茶畑管理を手伝った。写真。同地区で生産加工された紅茶を試飲した。

2日目は、那珂川町の陶遊館で小砂焼体験を行い、オリジナルティーカップを作製。那須烏山市では国見の棚田を見学し、茂木町ではリンゴ園の見学やイチジク収穫体験を行った。

雲岩寺地区を含む旧須賀川村では住民の有志グループやみぞあづまっぺ協議会(鈴木一利会長)が地域活性化を目指しており、現在は紅茶の生産加工にも取り組んでいる。

参加した千葉県の女性は「普段体験することができないことができた。茶摘みの大変さなども分かって良かった」と笑顔で話した。